われらが悲願、世界急進乙革命、

206

1

岸の匂のするものの凡てを送り届けた。ハッキリ縁切りだという意味合いで-者数人と柘植で協同生活を営み始めたのである。そこへニワは山岸の寝巻から古下駄に至るまで、山 とするならば山を降りる」というものだから、山岸は早急に山に帰ることもならず、Y子を含む側近 駅前の旅館に宿をとって療養した。直接山に帰ればよかったのであるが、肝心 は山を降りる、 は二ヵ月余りも入院した後、春日 私を離婚して、一箇の参画者とするならば会にいるが、山岸ニワ から車で十五分ぐらい 0 ニワが る、関西線

を結んで、あの帯を結んで、殺生な……」と泣いた。ニワの方はその様子を見て、「だらしがない おうと、三十四年の四月 ても先生に会ってくれ」と泣きつくように迫ったことがきっかけであった。それでは会うだけは会 一時はそういう関係となりながらも、再び二人の間にヨリが戻ったのは、周囲の者がニワに の好きな博多帯を蝶に結んで出かけた。山岸はその帯をみて、ポロポロ涙を流し「あの帯 頃、山で全研(全員研鑽会)が開かれたその一日、研鑽会へ出席するために 内心は悪い気はしない。愛情はやはり底流として渦巻いているの 「どう

である。それをわざと意識的に突っぱねて、「負けるものか」と思っている。それが参ったと思 前のようなあなたは身震いがする」というと、また相手も同じことを繰り返した。 ある晩、二ワが「もうあのような結婚はこりごりです」というと、山岸も同じことをいう。

去りかけると山岸はいった。 それで「ああ、それではこれで決まりましたね。ハッキリお別れであるということが」と、会場を

「ぼくはあのような結婚は二度としたくないと思っている。だけどこれから本当の結婚は

ると、「Y子はぼくが別れたら生きてゆけん子だと思っていたのが、他の男性のところにもいける子 のである。その際Y子のことも話し合って、きっぱり別れるということになった。山岸のことばによ ずしもそんな状況でないことは、後でわかったことなのだが……。 それ以来、 いうことがわかった。 山岸は毎日、 山に上ってくるようになった。そしてまた結局くどき落とされてしまっ だから得心して別れることができるんだ」ということであった。それ から

は愛情もさることながら、他に大きな理由があったのである。 ともあれこのようにして再び結ばれた両人ではあるが、ニワをして決意させるに至った動機とし

千万円以上の金が流れ込んでいた)と、 た。実のところその時分のニワは、山岸会への奉仕ももはやこれまで(春日の建設に、とうにニワの は山岸が柘植でしきりと何か秘密の画策をしているらしいことが、耳に入ってきたからであ [策も隠れ家の地下に壕を掘って火薬を溜めているとか、とんでもない情報が洩れてくるの よ重なってくる中で、 四国に隠れ家を用意して移転する気でいたのだが、 ニワはこれは大変なことになると予

ては画策の実態はわかりようもない。虎穴に入らずば虎児を得ることもなるまい」というので、 決心を固めたものであった。

起こし そのニワの た山岸会事件の内容たる『急進拡大運動』(略して急拡)であった。 柘植の方面から流れてくる怪しげな匂というのが、かの日本全国に話 題の渦を巻き

拡大をもって、真目的なる革命の達成を」というのが急拡の趣旨であった。 会者に配布された「真目的達成の近道」なる文章と、「解説」(「快適新聞」六月五日)によると、急 が考えられていたのである。「今や内外の情勢は緊迫し、一刻も猶予しておれない。急速なる会員の 拡大の範囲が問題で、そこのところで大ボラとも夢想ともつかない企図を持ち、全国民に至る拡大 の急拡が正 は別段危険な画策でも何でもなく、文字通り会員の急速なる拡大を狙ったに止まる。ただしそ 式に呼びかけられたのは、三十四年の四月十五日の春日においてであるが、 その際

階級の人々を、二週間特講に送り、この運動に参画する機会を実現せんとするものである」(同前) ではその急拡をどのように行うのかといえば、「それは現在の社会機構の根元とも言うべき上層指導 打ち出された『急拡』への準備行程であり、前渉行程に過ぎなかったとも言える」としている。それ 』によると、「換言すれば、徹夜研鑽会も、特講も、百万羽経営も、それらのすべては今日、

宗教界の指導階級の人々がこの運動に参画すれば、やがて議会で「全国民を特講に送る法律案」も可 びは期待できない。もし会員の一挙拡大を狙うならば、それは実力ある上層指導層の手腕に頼るべき つまりこれまでの農民を中心とする下からのやり方では、着実な漸進拡大ではあるが、飛躍的な伸 これは即ち上からの知的革命というべきであろう。一粒万倍、世の大臣、代議士、学者、 一挙に国民全体にこの運動が浸透してゆくことになるとしている。

制化?)もあるが、それはあえて公開しない。今はどんな人でも喜んで自発的に寄ってくる方式をと 手となる方法を持っているし、全国民を一斉に毎土曜日に義務的に小地区研鑽会に出させる方法 るものである(「達成の近道」) ば、上層階層を特講に引き寄せる具現方式が問題となるが、それには決定的に具体的にきめ と述べている。

ていた。(当時山岸は「やがて天皇も特講にくる」とふれていた) というまさに急拡なのである。全上層部の参画を十月にメドを置いたせいか、当時十月革命と呼ばれ ごろまでにほとんど参画し、全国民に及ぶのは、明年の三月末くらいに実現するであろう」(同前) この方法をもってすれば、「日本国内の枢要部の根幹をなす主要な人たちが、おそくとも本年十月

れて、 そして急拡の実行開始であるが、四月十五日に提案がなされると同時に全会員へ次 肝心の上層部の二週間特講であるが、これはいつから開始されるとも書いてないので判明 参画が呼びかけられた。山岸会に正式に諮られたのは、六月三日の臨時運研におい 十月末までに三回~五回連続的に行なうとあるところをみると、月二回として八月 てのようで

々と電報が

特講で、これは問題とならず、ついで事件となった第八十六回特講(七月一日より一週間)において、 開催される予定であったとみられる。 日本中のテレビ・ラジオの聴視者、 が一月以上早まったか、 団体の在りように向けられたのである。 あるいは前段階として取り組まれたのが六月十八日からの第八十五回 週刊誌、新聞購読者の耳目が、 この今まで聞い たこともみたこと

らましを知るのに、主として当時の新聞報道によっ 「中日新聞」 てみると、 一番最初に伝えたの

などの見出しで報じている。 (三重)の奇怪な討論会に警告 名目は養鶏、 中身は討論

父宇吉と母かずえが呼び寄せられた。 場合は、弟幸夫(二十五歳)が春日にいて、六月十五日頃『ユキオキトクスグコイ』 (三十歳)ら六人がやはり逃げたり、警察の呼び出しで連れだされたのであるが、そのうち松永隆 を見て逃げだし、所轄 にきたところ、「ここで講習を受けよ」と幹部たちから強制的に説得された。それで六月三十日す 記事内容は香川県大野原町農協職員藤田年一(三十歳)という人が、春日にいる友人を頼って遊 の上野署へ電話して不法を訴えた。つづいて七月一日には丸亀市中津 という電報で、 町松永隆 き

服でも先で必ず感謝する」といい、暴力に訴えてでも出席させることを言外にほのめかした。 兄の正夫と同道して七月一日午前に春日を訪れたが、到着して三十 った。やっと会ってみたところ父はやはり元気であり、さらに幸夫の知人は「講習を受けよ。 ところがきてみると幸夫は元気一杯で働い その後、隆や親類にも同様の幸夫名義の『チチキトクスグコイ』の電報が舞い込み、 ていて、宇吉は「講習を受けよ」と強引に引き止めら 分間は言を左右にして会わせなか 隆は早速、 今は不

それで隆は逃げだす機会を窺っていたが、同日午後一時頃招集が 父や兄をそのままにして、 「毎日」「読売」 山の裏側を逃げ下って警察に訴え出たものである。 の大手新聞はじめ、 かかってみなが集まってゆくすき

各報道機関が一斉にこの成り行きを報道した。

てもみあ せ い」とジー 保護願の 同様に二セ電報で呼び寄せられたまま帰らない受講者の家族が、 プの 警察 前 出ている受講者の引き渡 が関与せざるを得なくなった。 三日午後六時半には、上野署員九人がジー に会員 約五 人が坐り込み、「帰せ」 しを要求したのであるが 「帰せぬ」と互いに押し問答を繰り返 同会は「まだ講習中だか 一斉に保護願 プ

だけ拾 のなの この ってみると、 頃になると、 に向きだした。それで、各紙に山岸会の解説記事が載り始めるのであるが もう日本中の関 心心が 奇怪なる講習会とともに会を主催している山岸会とは何も 、それらの見出

山 岸会幹部と一問一答

足止めはせぬ 財産申込みは数億(七月五日 朝日」

の洗脳 (?) 教育

養鶏変じ革命へ 苦肉の資金集め 上野署 の見解 (七月五日「中日」)

わからん『山岸会』

共同生活の風俗として、財産の共有とともに女性の共有も喧伝された。「農場の若者でがたければ入れ?(幸福そうな共同生活)入ったら出られぬ(七月五日「伊勢」)

だせないのは、このXマンと称する秘密組織員が、常に見張っているせいであるとされていた) よ会を妖しくも奇怪な集団としてみせかけた。 性的共同体としても、 はおれの女房、おれの女房はお前の女房』と語ったもの」(「毎日」)もいて、 世間の注目を浴びたのである。 それは奇怪なXマン(受講者が容易に逃げ の名と共に

した。周りがこのように騒然としている中でも講習会は静かに続行され、保護願の出ている受講者の したが、「話し合い」の約束の下に、約四時間もの山岸ズムの討論会に引き込まれてしまった。 かくて五日には不法監禁、人権侵害の疑いで、三重県警が本格調査を始め、津地方法務局も動 。五日一時半には再度上野署の警官隊約十五人が出動して、身柄引き取りを交

りのことに啞然としてしまった。受講者の信じられぬ変わりように、家族も警察も、止むなしとすご が残っている。最後まで受ける。今、丁度面白くなったところだ」と答えたので、家族たちは、あま というと、ようやく会側も折れ、面会することができたが、受講者たちは口々に、「あと二日の講習 すご山を降りていった。 同日午後六時過ぎには、保護願を出した家族側が、「二、三分も会わせてくれないのは誠意がない」

れる一幕もあった。 「疑惑の講習会」(「毎日」)が終了したのは七月七日、この日以後一日補講に残る十五人を除いて、 日吉町の井尻さんは、 終了 五十七人が、見送りの約二百人と一緒に宣伝カーを先頭に「2革命万歳」などのプラカードを 関西線新堂駅までデモ行進した。新堂駅ではときならぬ人波でごった返したが、この中で京 日までいたものは七十二人であった。 第八十六回特講参加者は最初は全部で九十二人、途中脱出したり下山するものが 居残り組の娘鈴子(十八歳)を連れ戻そうとしたが、それもならず泣き崩

帰郷者一行は『しあわせの歌』の合唱に送られ、 向かってようやく波乱の地を離れた。 新堂駅午後四時三十四分発の上下列車で、それぞ

野署は公安条令違反、道路交通法違反、食品衞生法違反、住民登録法違反等の容疑で、 の経過は大体そんなところであるが、 警察としては事後対策の問題がある。 山岸会に最後 八日朝には上

としても、 い、傍ら社会不安を捲き起こした罪として不法監禁事件成立の詰めを急いでいた。警察側 この不可解極まる事件の実態を見極めんとしていたのである。それを報道にみると、

三重県警が結論 受講者から傍証固め(七月八日「産経」)

山岸会事件 不法監禁等で近く検挙

三重県警、裏付け急ぐ(七月九日「毎日」)

まず十人逮捕か、不法監禁や傷害容疑 娘さん精神異常で入院(七月九日「朝日」夕刊)

が春日を包囲、捜索したのであるが、 ということになってきたのである。現実に十日六時、笠取中学に集結した二百人もの制・私服警官 捜索隊が宿舎に至ると、被疑者らは次々とおとなしく官憲の指示に応じていった(この日の逮捕者 が隠されているとの情報で防弾チョッキに身を固めた機動隊員も、拍子抜けの格好であった。 おどり込んだ先の山の宿舎はひっそり静まり返っている。ピ

拶をかわして伴われていった。みな逮捕されることは予め覚悟の上だったのである。 ぐらい剃らせろよ」と制止して、悠々とヒゲを剃った後、八カ月になったばかりの長男にニッコリ は川口、 上谷、安井、松山、戎井、下元、中井の七名)。逮捕者の一人などは、踏み込んだ捜査員に「ヒゲ

「警官隊は正午過ぎ手入れを成功裏に終り引揚げたが、山岸会の会員たちはいさましい われらは官軍。の歌を合唱。 連行者たちはまるで旅行にいくような明るい表情で連行されていった」(七月十一日 『真実社会のためにバンザイ』と手をふりながら警官隊を笑顔

だるまに 私はそれ に転げ込んだ。余談であるが、この場面は丁度常時詰めていた報道カメラマ は西ヶ峰の松林の中で胸を刺され、「二人にやられた」と叫 一(三十四歳)が刺されたのは、その翌日のことである。 すぐに事務所で血どめの包帯をし、上野市の山中病院に収容された。 をたまたま入った映画館でニュースとしてみ、その迫力にショックを 5

最中 東に は 一日朝も口論の末、 も九日 H H あり、 午前二時頃に絶命した。 は、 始終ズボンの下にドスを隠し持っているような男である。今度の山岸会事件 10 0 スを抜いて逆に二人の反撃に合ったものである。 ヤクザ四人を引き連れて、会の方針に反対だとばかり乗り込んできて 東は病院に入れられ 0

数のもの 迎え の実態を知ることは容易でない。なぜなら、公式的目標は指導階層の二週間特講による飛躍的拡 ったにしろ、現実に起きた事件との関連性がわからないし、事件の真の意図を知るも か つつあったわ くて非暴力知的方法を謳い けであるが、振り返ってみて、一体この山岸会事件とは何であ 山岸巳代蔵唯一人だったかもしれ つつ、遂に殺人事件まで引き起こして、 ない のである。 いよい よ山岸会事件 ったかとなると、そ のは の終幕 大 To

いて遠ざけられていたようである。 周囲にも幾らも反対はあったが、とりわけニワは山岸のやり方に疑惑の ておや。そのため 真意を察知できる状況にはない。 のであるが に今日においてもこの事件の客観的評価、企図された狙いは明らかにさ の思想的、 山岸を信頼し、 現実的背景につい まして山岸が思ってもみなかった不測の事態が 取り巻きとなっている少数分子といえども、 ては、「解説」文章からしても大体推察が 眼と反 対の 次 々と起

研の席上での発言)と答えている。 内外共に逡巡を許さない情勢となった上、実行するに必要な人材も揃いはじめたし……」(五月中央運 で択ばれたのは、山岸のことばによると、「計画案は早くから持っていたが……今やまわりの情 実であることや、先達者を模することが要求されたのも、単にこれ、急速実現の故にほかならず、学 専門家による一粒万倍の具現方式も当初から説かれてきたものである。ただ実行時期がこの時点 ち急速実現がもともと山岸ズムの特徴を成すことは、これまでも説明してきた通りで、

たようであるが 岸は共産党及び共産圏の動向にたい 知されない以前に、一刻も早く、 中国のこの眼を見張るような動きに批判的な眼を持つ山岸は、 、三十四年といえば、前年の へん気を配って 自分の考える実顕地の完成と拡大を急 「大躍進」から人民公社 いた。 殊に毛沢東の の中国全土への拡 人民公社 中国 0 が正し いでいた。 進展に注目 大 かいり 0 期とな 0 とし て

湧き立 加えてこの五 は会の宣伝の弱さを大いに痛感したらしい。山岸らの間では創価学会を参考に

て話題となったが、これは革命に生命が、 て実行するに必要な人材も揃い 時間 月の発言間 、これは革命に生命がけで専念している時の人を指所の奥部屋で論議していたのである。事件の最中、 って、彼らはそれぞれ人事、総務、経理等を担当して、昼夜を分かたず、 . もなくの六月二日、参議院選挙において創価学会が全員 誰がそ れであるということもできないところからXマ だしたというのは、むろん山岸を絶対信頼する十人そこそこの で専念している時の人を指すもので、一人の人とい Xマンと称される秘密 、当選とい ンとされ う成 たのであ われらが悲願

るが、そのXマンも事実上、山賊部屋の分子をもって称していたことになる。 「解説」をみると、この急拡に参加するオールメンバー(二十四時間革命家)は、独立部隊とし

になる」とあるが、これが即ち一ヵ月後にXマンとして立ち現われたのかもしれない。いずれにしろ 「百万羽KKの人事係とは、全く別の存在となり、この人たちとは組織的な関連はもってい 山岸会事件はこの十人そこそこの中核分子によって企図されたものであり、百万羽創設の時と同 一般会員 はその具体的内容や実現の可能性も定かでないままに、 のせられてしまったのである。

えばう ワの最も好ましくな 天才的なところがあ す暗 体じみて聞こえるのは、主としてそうした山岸の、よく 紀の偉大な手品師だ」ときっぱりいい切ったのであるが、確かに山岸には人の眼を欺くに が山岸の策士にして度胸のいい所以であって、 った。それが山岸の演技者の演技者たる所以であり、 側面の雰囲気によるものである。殺された東加九一は記者の質問を受けて、 の山岸でもあった。(注) 以後 いえば知的方法主義であるが、悪く 今日においても山岸会とい あくまで正攻法型である二 えば時

後でわかることだ」とあたふたと宿舎に消えていったと報じている。 「先生」と近づくと、山岸は薄笑いを浮かべて、「今は何もいえない。この会に疑惑があるようだが にはかねて顔見知りだった朝日新聞の記者が、ヒョロリと洗面所に姿をみせた山岸を見つけており、 か」(「毎日」)といっているし、八日の日には山岸死亡説も報道されていたのである。ただし五日朝 元見張り役だったヤクザ男も ・ヤクザ男も山岸には会ったことがなく「本当に山岸という男がいるのかどう一大に関係し合っていたに相違ないのに、新潟旅行中と称して一向に姿を見せ

ナゾの人物、山岸会長

常に所在不明 ボット的存在説も(七月七日「産経」)

という見出しの報道も無理からぬところがあった。

を現わさざるを得なくなった。本部宿舎の南端、六畳二間の居室にお ニワを介して記者の一問一答を受けたのである。その要旨は次のよう 禁などの騒ぎをよそに姿を消 してい た山岸は、 遂に十日朝の手入れで、 Vi て、 なもの 病気と称して床に臥 であった 白日の下に

――体の具合が悪いのか。

答 心蔵が悪く息切れがする。

――山岸会とは宗教団体か事業団体か。

答私はあらゆる宗教を否定している。

受講者たちを不法監禁した事実をどう思うか

私は暴力を否定しており、暴力が事実なら今の幹部の人たちは考える余地が ある

――今後警察から任意出頭を求められた場合、応じるか。

ちろん応じる。 私はむしろ警察へ保護願を出そうと思っているくら いだ。

――あなたは会長ではないのか。

会長ではない。これまでもそうだった。

―会は今後、経済的に行き詰まると思うが。

なさんは山岸を軽く見過ぎている。早く 話し 合い の場を持ちたい そし てみなさん

言葉を理解するようになってもらいたい

係ないといったふうであった。 記事の傍らには、「ふとんにもぐり込んだままかすれ声で語る山岸氏」の、 .掲載されている。これが「覆面ぬいだ山岸巳代蔵氏」(「産経」) で、騒動にはまる 掛けぶとんで半分顔を で関

であろう。 うか。成程、十日朝の第 しようとする人を押し止めたり、 、果して山岸はこの事件の思想的指導者としての役割以外に、 しかし直接行動の指示は、具体的に与えていたはずである。 一次手入れでは逮捕状が出ていなかったところをみると、直接行動の面では 道路に木材を並べて車の通行を阻害するようなことはなかっ 実行の部分で関係 2 た

るはずがないと思える。 福社会)を明らかにしたわけである。このようなタイミングのいい行動が、 終革命の意味で、これによって急拡=急革(無我執の全世界への拡大)の狙い(手段の意、目的は絶対幸 この 日の日には、名称を「世界急進乙革命団」と改称し、さらに翌五日には高々と鉄塔の大看板を上げ ることでもわかる。2革命の2とは、アルファベットの終わりであるから再び革命を要しない最 事件が偶発的なものであるよりは、意図的なものであることは、一斉に報道がなされ始め 山岸の指示なくしてでき

ない」と怒鳴り、当人はビックリしたといっている。 いった。その中の一人が「無理しても出さんのですか」と問うと、山岸は途端にきつい声で「無理や あるが、事件最中、 山岸の事件との直接関り合い 山岸は三号宿舎の前で四、五人のものを集めて、「受講者を絶対外に出すな」と については、私が取材した範囲でも十分に窺える。 例えば不法監禁で

じめ暴力とは何かということも討議されていて、ボクシングや剣道のなぐりあいは暴力とは 仮に病人を手術するのを暴力と呼べるか-などと納得させられていたようである。

はいわば人格転換のための外科手術の機会であった。

入れがあるやろから、その際にはいっそ大きく検べてもらおう」と語ったのを聞いている。 ことすれば警察がでてくる」というと、山 な特講に放り込んだる」とうそぶ っていたと推察される。それもいくつかの証 はこうすることで警官が導入されることも十分読んでい いていたというし、 岸は平然として「それやったらいいのや、それや また別の人は山岸が「い 言があるので、日頃親 ずれそのうちに手 しい某が いったら 「そん

意識的に火薬、銃器類のあることをほのめかしていたのである。Xマンらしき若者が駐在所の前で、 山にはピストルもあるんやで、 その言葉の通り、遂に三重県警の一年分の予算をたった一日で使うほどの大捜索を招いたわけであ いかな不法監禁でもこれだけ大がかりな捜査を引き起こすにはそれなりの工夫がいる。 機関銃まであるんやでえ」と揚言したりしているのである。 山では

とりあっていたといわれるが、あるいはそうした細かな細工に至るまで山岸の演出であったか の隅に結びつけておいて、わざと、警察に垂れ込みそうな奴と思われる男の前で、「ここには火薬が ないのである。その挙句が十日払暁の機動隊二百人による大手入れとなった。 しまってある」と洩らしていたそうである。火薬とはむろん、買い集めた少量の線香花火のことであ 先の某によると山岸は、花火を買ってこいといって、線香花火を買ってくると、それを卵の またXマン、見張り役の連中はみな黒いサングラスをかけ、夜は呼び子を鳴らして横の連絡を もし

あったとみられる。 に、蜂の巣をつついたように騒ぎ立てた報道陣、そこに現われているので、山岸会の大宣伝が目的 しかし一体山 |岸はこれだけの大騒動を起こして何を狙っていたのか?| それは何よりも全国 社会的事件を引き起こしてマスコミにニュースを提供する、そのこと自体

ただしそれは意図的であるにはしても、あくまで実践者たちの真目的への 0

いら ような言によっても窺うことができる。 」(「特にマスコミ関係者等重点的に呼びかける必要がある」)に現われていて、山岸は早くから宣伝 ズムがそれこそ一粒万倍のマスコミを格別重要視する点については、すでに前年二月 マスコミの 利用を考えていたのである。それは山岸と親しかった四日市の生源寺泰信 0 運

び寄せ、 ところでは、 て大いに会の実体を検べてもらおう』ということだった。 ら重大発表があった。これは『今こそ全国に山岸会の存在を示す時だ。電報を知人、家族 山岸氏の計 ずみだが しハ きた人を強制的に収容すればきっと騒ぎになり、 ガキで集まってい 、これについてはいえない」(七月十日 山岸氏の 画の完全な成功だ。 計画と寸分の狂いはない。このほか裁判になればどうするかについても検討、 た。六月三十日まで高等研鑽会を開い 農場にいってみると、 1「中日」) 県下はじめ だから計 報道陣が かけつけ 画が図に当ったわけだ。今までの たが、三十日 各地の有力 大きな問題となる。そし x 0 ン 最終日 に山 か に打って呼

リアを始め各地でテロリズムが行なわれた。その一連の実力行動 これをいうならば アナキスト 界のアナキ 伝統的方法たる ″ ズム運動では『行動による宣伝』の要がしきりに説か か つての 事件となっ アナキスト たのであるが、 動による宣伝』を引き継いだわけである。ただし暴力否定の のとった。行動による宣伝、であると思われる。 確かに 実際行動は大きな社会的影響を与える。 の余波が日本にまで押し寄せて、架 れ始め 、フランス、 一八九〇 イタ

ズムをとら

。テロリズムをとらないからとい

って、

警察も見向きもしない

ような行

拘留期限内に、遅いものでも ス格とみられる川口が山から脱出し、追跡の報道車を散々引き廻した上、上野市の洋服店で夏服を新 効果を上げるべく、さまざまなマンガにも似た小細工が弄された。八日午後三時頃には、Xマンのボ る。そこでできるだけ大きな社会的事件とみせかけて、 逮捕者の問題もすでに読み込みずみであることは生源寺も述べているが、事実、大半は二十一日の した後引き返しているが "不法監禁"であった。これならば最小の被害で最大限の効果が上げられようと-持ちにく 、これにしても演出効果を盛り上げるための芝居としかみようがない 同年冬ぐらいまでにはみな山に帰ってきているのである(過失致死容疑 Vi 。しかも警察沙汰となって大きな犠牲がでるのでは、これまた困 しかも最も被害の少ない方法として択ばれ 一。最大限 0

各新聞社を次々と訪問 、どこでも「大山鳴動ねずみ一匹」ととり合わなかったそうである。まさにその通りで、「大山 の発展にどの程度効果があったかとなるとたいへん問題がある。 てねずみ一匹」こそ山岸の狙いであったのである。しかし結果として、この山岸会事件が山岸 件直後、 山の女たちは山岸会の真実を知ってもらおうと、東京に住み込みの行動隊をくりだし、 しては、 何とかして再度山岸会を紙上に載せてもらおうと努力したのである

の二人を除いて)。

2

7 ンごっこ。なるものがはやまるまでにその名は知られ、 なるほど日本中に山岸会の名を知らしめる意味では、大いに効果が 仮に全マスコミの記事を広告費に換算し あった。巷の子供 の間 では

実に大きなPR ならば、当時の金でも億の単位で計られねばなるまいと想像されるほどの記事が出た。PRとい 山岸自身もむしろ驚いたに違いない。

をつくってくれさえすれば、 とうそぶいて 光ら幾多の評論家、名 いるのであって、悪評であろうと何であろうと、マスコミがおれ達を検べる機会 した会員の言によると、「新聞記者がどう書こうとおれ達にはプラスになる 悪名による宣伝である。 結局は真実がわ 士が次々と発言したが、その殆どは的はずれの悪評が主旨となって かって得なんだとしていた。 事件評については、 池島信平始め桑原武夫、

感謝する 現に ニセ電報で呼び出され、強 」との返答をして、 記者らを啞然とさせたりしている。 制的に特講を受けさせられたものも、 特講終了後には「二七電報に

ることになった。この事件によって完全に社会的信用を失って、 だが、マスコミによる悪評 、一種 の経済封鎖が行われて、 の宣伝と幹部 途端に食うにも事 の逮捕は、残され 欠くような状態に陥ったのである。 たものにあまりにも大きなあ 急拡どころか拡大自体が 止まっ おりを与え てし

がこの事件であったろうが 特講はおろか百万羽計 前にいうように、 急拡は指導者層の二週間特講を大きな狙いとしていて、そのための 画自体をも危機に追い込んでしまったのである。 宣伝の面では成 功したものの、反響はあまりにも大きく、 いわば かえって二週 前宣伝

通知してきて、事務局の方では折り返し「ナニヲグズグズシテイル(スグコイ」の召集電報を打つが 会としては七月十 八日 十八日から からの第八十七回特講を大いに期待していたのであるが、それ 予め申 の特講は取り止めになった。 し込んでいた二十名ばかりの希望者も、次々と電話で取 のみならず、 春日とす が案 れば当面の n を

分達自身の問題で特講を開こうにも開けず、 回特講は東京にて三十五年八月二十三日より) 以後翌年もかなりの時期まで中断の形となった。(八十

晩に某氏に、「今晩ちょっと出かけるでなあ、 からまた始めてもええわ」といい残して山を降りていった。そのあくる日に逮捕状がでた。 岸自身はといえば、春日から卵のケースに身を潜めて、トラックで脱出している。 あと一遍ここのもの散ってしまうかもしれんが、 出てゆく ま 日

りではあ 姿をくらましたことは、賢明なことであったかもしれない。むろん時期をみて、警察に出頭するつも の中心人物であることをつきとめた」(二十七日「毎日」夕刊)とあり、例え容疑であるにしろ一時 新聞をみると「七月二十七日、山岸巳代蔵会長=強迫容疑で指名手配中=が東氏殺人事件の共同謀 ったのであるが……。

者が逮捕され 途端に窮地に陥ったことは容易に想像されよう。当時経理を手伝っていた人の話によると、経理責任 ってくることになった。 このようにして最も肝 、収入が乏しく、金に逼迫していたことは事実であり、それが幹部連中の 警察発表では事件は経営困難から引き起こされたものとしていたが、それは見当違いとはいう たので、 鶏舎建設などの支払いはあるわ、収入目当の相手先がわからぬわで往生したと 心な頭を失い、手足(幹部十四人拘留)を失ってしまった後の百万羽計画が 拘引でいよいよ

件の最中の五日には、 たのであるが、これが事件とともに解散したことで、 をとって運営費とする。 この「速進会」というのは山岸らしい構想で、会は百万羽を見学にくる外来者から 地元の「春日繁栄速進会」(中林保男会長)の全員が引責辞職し、会は解散 また山岸養鶏法の普及に努めたりして、地元とは相互扶助 地元の業者からの野菜等食糧品

吹きまくられ そこへ以ってきて悪い時には悪いことが重なるもので、その年九月十五日 、宿舎一棟全 壊、数棟の屋根が飛ばされるという悲惨な目にあった。 には大型の伊勢湾台風

姿を知っ 価するとなれば な最小限の員数のみ残して、他の全員が外へ働きにでることになった。もしこの時点でも山岸会を評 等の よいよ経済的窮乏に陥った百万羽では、一部の帰れる家のあるものは帰ることとし、 てもらうべく、それぞれ会活動に従事していたことである。 女中に住み込み、 事件そのことより、事件後の窮乏のさ中にある参画者たちであって、女方の大半は 男は京都方面で土方仕事をしながら窮乏を切り抜けると同時に、会の真

た養鶏係といえども 0 た。正 のうちの一人である大崎亀美子の場合だと、彼女は三人で隊を組んで首相官邸に嘆願書を持 都合十七日間官邸に通いつづけたという。官邸のみならず各新聞社、政党も訪れて実状を訴え スポンベの会社へ泊り込んで、犬にやるようなパンの耳を嚙りながら活動をつづけた。 で事情を話したが会わせてくれないので、 の同志が帰ってくるまでは頑張らにゃいかんと、鶏飼いに精出していたのである。 自活しながらやれということで、最初は上野の木賃宿に住まっていたが、 目玉の映るようなおかゆをすすりながら、山岸先生はどうしておられるやらと心 翌日も行き、また追い払われてその翌日 やがて世田 残っ も訪 2

こうした結果としての状況に対して、山岸自身はどう考えていたかといえば、「あゝいうことも予 のと変らんものになっていたと思う」としていたが、他方では反省を強いられて ないで、活かしてきていると思う。 あれなしに立派な工場ができていたら、

た。自己自身への深刻な反省に迫られていたのである。

「愛情の不安定がああいう過激な手段をとらせたんや」と語っていたという。 は正しくとも、やり方はまずかったという反省もあったようである。 後に、 周りの もの 13 は

件を引き起こしたともいえるのである。 迫っていたのであるが、つまりそうした山岸の絶望と焦燥の胸中が、遂に日本中が注視した山岸会事 なる。 問題と山岸会事件とは二つのものであるが、内側からみれば一連のひとつづきのものであったことに とすれば事件 山岸は「この意が成らないなら、世界をも破壊してしまう」といういい方で、ニワに強迫的 る。 即ちニワとの夫婦問題がここまで延長されていたことになる。外側からみれば一体夫婦 の背景には、客観的な種々の要因の他に、もう一つ山岸自身の主観的要因 があったわ

どちらの方を出せばよいのかわからない。 書に印をつけておけばよかったものが、そのまま黙って受けとっておいたものだから、返せとい うので、某は預っている封筒をとり出して慌てた。というのは、山岸はその時認めた誓約書を某に渡 事件の翌年、 書いていて、その場に証人として居あわせた某に封筒に入れて渡していたのである。「それならば…」とい に交した誓約書というのは、柘植の同棲時代に山岸は、Y子に「必ず一年後に結婚します」という書面を ので逢ったところが、「結婚したいので、前に山岸さんと交した誓約書を返してくれ」といったという。前 Y子が二階から階段を降りたスキにもう一通の同じ封書を某に手渡していたのである。某はその時封 中味は白紙であった 十月頃に山岸とは柘植時代にも一緒だった某のところへ、 Y子に卒直にそのことを話して、 Y子が突然逢いたい とりあえず一通を開いてみる といって われても き われらが悲願 *世界急進 Z 革命。